様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　７ 日現在

機関番号：３４４０９
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2019
課題番号：１５Ｋ１７４１２

研究課題名（和文）価値多元的社会ドイツにおける道徳教育のカリキュラムと教授学に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on Curricula and Didactics of the Ethical and Moral Education in Germany

研究代表者
濱谷　佳奈（Hamatani, Kana）

大阪樟蔭女子大学・児童教育学部・准教授

研究者番号：６０６１３０７３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、多様な民族的・宗教的・文化的背景を持つ人々により構成される価値多元的なドイツ社会における、道徳教育のカリキュラム及び教授学習方法の変革を解明することを目的とし、倫理・哲学科と宗教科の相互影響関係に着目して検討した。コンピテンシー重視の考え方等の影響を受け、これらの教科間でもカリキュラム上の連携が現在進行中である。連携のあり方は州ごとに多様であるが、州によってはイスラームの宗教科を開設するなど、宗教科による宗派的宗教教育と倫理・哲学科による世俗的価値教育とのさらなる共存・連携が模索されている。こうした研究成果は、学会発表やドイツの道徳教科書の翻訳及び学術図書の刊行により公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　ドイツの道徳教育のあり方が、多様性の中での共存・連携を図るという緊張関係のなかで形成されてきたこと、また、ドイツの事例から言えば、近代公教育の一大特色とされる「近代化=世俗化=脱宗教化」という図式は、基本法の制定期からすでに当てはまらないことを学術図書の出版によって示した。
　加えて、コンピテンシー志向のカリキュラムに対応した実践哲学科教科書を翻訳出版し、シンポジウムとワークショップの開催によって、研究者だけでなく現職の小・中・高・特別支援学校等の教員の協力を得て、日本の道徳教育や宗教教育とのアイディアの交流を図ることができた。

研究成果の概要（英文）：Under the influence of competency-oriented thinking, subjects of ‘Religion’ and ‘Ethics and Philosophy’ are now closely linked at the curriculum policy level in Germany. However, the regal form of coexistence and coordination of both subjects varies from state to state. It depends on whether confessional religious education is maintained or secular values education is emphasized, and how they complement each other. In addition, by establishing Islamic education as a regular subject, variations in form of coexistence and cooperation are becoming more complex.
In addition to publishing academic books, I also translated and published a textbook on the subject of “Practical Philosophy” to contribute to moral and religious education in Japan. Furthermore, I hold symposium and workshops with the cooperation of not only researchers but also school teachers to exchange ideas and opinions on moral education between Japan and Germany.

研究分野：比較教育学

キーワード：ドイツ　道徳教育　宗教教育　哲学教育　宗教科　倫理・哲学科　コンピテンシー　多様性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ドイツでは､初等教育段階よりコンピテンシーを明確化した倫理･哲学科と宗教科によって、価値的に高度な内容を含む道徳教育の理論と実践の融合が試みられているが、両教科の相互影響関係はいまだ解明されていない。獲得されるべきコンピテンシーをめぐる教授学に関する議論が進展しており、イスラームの宗教科を正規の教科として開設する州も現れる中で、世俗的価値教育と宗派的宗教教育とを包括した視点からの道徳教育研究が必要であるというのが、研究開始当初の背景にあった。

こうした研究は、ドイツの哲学者である Jürgen Habermas が 2001 年 9 月 11 日の事件後に「世俗化された現代社会が宗教的確信に対して新たな理解を持つよう」要求して以降の世界の宗教をめぐる状況とも深く関わる(ユルゲン・ハーバーマス著 , ヨーゼフ・ラッツィンガー著 , フロリアン・シュラー編 , 三島憲一訳（2007）『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』)。2004 年､J.Habermas と Joseph Ratzinger(前ローマ教皇ベネディクト 16 世)は討論会を開催し､「自由な国家における政治以前の道徳的基盤」をめぐる議論を行った。その後、倫理科教授学専門雑誌(Volker Steenblock (Hrsg.)(2013): *Zeitschrift für Didaktik der Philosophie und Ethik*)が J.Habermas を特集し､宗教に関わる Habermas の議論とその道徳教育の教授学習方法への影響が検討されている。さらに、倫理科の中で宗教をいかに扱うのか、また、宗教科の中で哲学や倫理をどのように扱うのかを検討する研究動向が見られる。そこで、本研究ではコンピテンシーが明確化された倫理・哲学科と宗教科の教授学習方法において、児童生徒の主体的な学びを支援する理論と実践の融合がいかに図られているかを検証する。

２．研究の目的

本研究は、多様な民族的・宗教的・文化的背景を持つ人々により構成される価値多元的なドイツ社会における、道徳教育のカリキュラム及び教授学習方法の変革を、理論的かつ実証的に明らかにすることを目的とする。この目的を達成するため、宗教科と倫理・哲学科での取り組みに焦点を当て、具体的には､（１）カリキュラムに見られるコンピテンシー・モデルへの転換、（２）コンピテンシー・モデルに対応した教員養成、（３）多様性を尊重した授業実践、を明らかにすることを目指す。さらに、今後の日本の道徳教育のあり方を検討する一助とするため、（４）実践哲学科教科書を翻訳出版し、その教授学習方法を実験的に試みると同時に、現在の日本の道徳教育と宗教教育の教育実践にも寄与する研究を目指す。

３．研究の方法

上記の研究目的を達成するため、実施された研究の方法をまとめると、次の通りである。

第一に、先行研究及び最新の研究動向、各種資料を分析し、倫理・哲学科のカリキュラムに見られる変革を、特にコンピテンシー・モデルへの転換に焦点を当てて明らかにする。主な資料として各州の諸法規やカリキュラム、教科書等を扱い、現地調査に向けた基礎を形成する。

第二に、初等・中等教育段階の各学校、州立教育研究所、教員研修センター、就学前施設等を訪問し、そこでの教育実践や教員養成ゼミナールの参与観察及び校長、教員、児童生徒、保護者等へのインタビュー調査を行なう。

第三に、以上の文献研究と現地調査の結果を組み合わせて検討し、その成果を国内外の学会発表及び図書の刊行によって公表する。また、日本の道徳教育実践に寄与するため翻訳教科書を刊行し、シンポジウムとワークショップによって日独間の研究と実践の交流への基盤を形成する。

４．研究成果

本研究課題の成果について、研究の主な成果、得られた成果の国内外における位置付けとインパクト、今後の展望の観点から記述すれば、次の通りである。

（１）　主な成果

①カリキュラムにみられるコンピテンシー・モデルへの転換

OECD が主導するコンピテンシー重視の教育の影響を受けた、2000 年代後半にみられるコンピテンシー・モデルに基づくカリキュラムへの転換を、特に倫理・哲学科によるコンピテンシー志向のカリキュラムに焦点を当てて検証した。具体的には、ノルトライン・ヴェストファーレン州の実践哲学科カリキュラム（2008 年版）とブランデンブルク州の LER 科（生活形成、倫理、宗教学科）カリキュラム（2008 年版）を事例として分析した。検討の結果、コンピテンシーという基本概念を重視する新たなパラダイムを軸として、両教科の導入から約 20 年が経過するなか、互いのカリキュラムを比較することが可能になったことが確認された。ただし、

コンピテンシーと連動した成績評価のあり方については問題も指摘され、コンピテンシーに即した正当な評価を行なうことが困難な問題であることも明らかになった。一方で、宗教科のカリキュラムにおいても、教会および州レベルで各教育段階における教育スタンダードやコンピテンシーが定められてきている。こうしたコンピテンシーを重視する考え方は、倫理・道徳教育教科である宗教科と倫理・哲学科との関係にいっそうの結び付きを促している。すなわち、他の主要教科と同様に、倫理・道徳教育を担う教科においても、何を学校での倫理・道徳教育の中身として掲げ、その学習成果をどう保証していくのかが重視されている。

以上の成果は、論文「ドイツにおける倫理・哲学科による道徳教育カリキュラム改革—コンピテンシー・モデルへの転換に注目して—」(2016 年)により公表した。

②教育実践と教員養成にみられる倫理・哲学科と宗教科との教科間連携

倫理・哲学科と宗教科との教科間連携の特徴と課題を描き出すために、学校法で宗教科・世界観科と倫理科との連携が規定されているベルリンを事例とし、研究代表者が 2014 年に行なった事例研究とインタビュー調査の結果分析を行なった。とりわけ、授業実践と教員養成課程のあり方に注目し、両教科の現在および近い将来の連携の可能性と限界とはどのようなものかを探った。ベルリンの場合、法規定に基づく両教科間のパートナーシップの構築により、新たな教科間連携の教育内容と方法が示され、その目的が異文化間コンピテンシーを発達させることと掲げられている。一方で、ベルリンでの倫理科と宗教科の教科間の連携モデルは、倫理科と宗教科の互いにとっての連携ではなく、必修教科である倫理科の教育内容のための連携である。そうした意味では、宗教科の方を軸にした倫理科との連携のあり方の問い直しが必要であると指摘した。

詳しくは、論文「ドイツの道徳教育における倫理科と宗教科との教科間連携の特徴と課題—ベルリンの事例研究とインタビュー調査を中心に—」（2016 年）により公表した。

③ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携に関する総括的考察および、日独間の研究と実践の交流

以上の研究とこれまでの研究に基づき、ドイツでの宗教科と倫理・哲学科との関係を第二バチカン公会議（1962 年-65 年）以後の歴史的展開として総括的に考察した。その結果、ドイツでは、公立学校でありながら倫理・道徳教育が単純に「世俗化」されず、個々の宗派・宗教・世界観の中身が含まれた形でその特異なあり方が形成されてきたことが明確になった。倫理・道徳教育を担う宗教科と倫理・哲学科の両教科にみられる多様性と連携への模索を単著にまとめることができたのは大きな成果である（図書『現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携—中等教育の宗教科と倫理・哲学科との関係史』（2020 年））。

次に、2019 年に実践哲学科教科書を翻訳出版し、2020 年 2 月に日独シンポジウムとワークショップを開催することで、今後の日独間の研究と実践の交流を促進するための足がかりを作ることができた（図書『世界の教科書シリーズ 46 ドイツの道徳教科書—５、６年実践哲学科の価値教育』（2019 年））。

さらに、World Education Research Association 2019 Conference(世界教育学会; WERA, 2019 年 8 月)での発表により、日独比較による倫理・道徳教育に関わる国際的議論とその発信に着手することができた（学会発表 Challenges for Equity and Social Justice in Ethical and Moral Education: Analysis from a Japanese Perspective of the Reform from Confessional Education to Citizenship Education in Germany(2019)）。

（２） 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

ドイツの道徳教育のカリキュラム及び教授学習方法の変革を明らかにするだけでなく、その教育実践の一つの事例として、実践哲学科教科書の翻訳を刊行した。この教科書を用いたシンポジウムとワークショップを国内外の研究者の協力を得て開催することで、転換期を迎えている日本の道徳教育に対しても、客観的視点からの議論と一つのモデルを提示することを試みた（その他：日独シンポジウム・ワークショップ「『考え、議論する』倫理・道徳教育の可能性と課題—ドイツと日本の事例から考える—」ワークショップ資料(2020 年)）。

国際学会で発表を行い、これを契機としてドイツの研究者との新たなネットワークを築くことができた（上掲学会発表(2019)）。

（３） 今後の展望

ドイツでの現地調査により、宗教科と倫理・哲学科のカリキュラム・授業実践・教師教育に対する、多様性を尊重するインクルーシブな学校教育の考え方の広がりの影響について知見を深めることができた（学会発表「ドイツ初等教育にみる多様性の尊重と宗教教育—ノルトライン・ヴェストファーレン州のカトリック基礎学校の事例を中心に—」（2017 年）および図書（共著）『シリーズ学力格差４国際編 世界のしんどい学校—東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み—（2019 年）』）。

ただし、2000 年代以降のドイツの学校制度は、半日学校から終日学校へと改革が進められ、

学校自体の社会的役割が変化する中で、家庭や教会等も含めた地域との連携の在り方も変容している。そうした変容をふまえ、「倫理・道徳教育」が学校教育における「学力形成」とどのように具体的に関係しているかを検討する必要性を認識するようになった。

こうした現状及び問題意識をふまえ、2019 年度より新たな研究プロジェクト「ドイツにおける倫理・道徳教育と学力形成との関係をめぐる実証的研究」に着手している。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　5件）

１．著者名 濱谷佳奈	４．巻 6
２．論文標題 ドイツにおける保幼小連携の現状と課題 ―ベルリンとバイエルン州の事例に注目して―	５．発行年 2015年
３．雑誌名 子ども研究	６．最初と最後の頁 9-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 濵谷 佳奈	４．巻 25
２．論文標題 ドイツにおける倫理・哲学科による道徳教育カリキュラム改革	５．発行年 2016年
３．雑誌名 カリキュラム研究	６．最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18981/jscs.25.0_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 濱谷佳奈	４．巻 6
２．論文標題 ドイツの道徳教育における倫理科と宗教科との教科間連携の特徴と課題　―ベルリンの事例研究とインタビュー調査を中心に―	５．発行年 2016年
３．雑誌名 大阪樟蔭女子大学研究紀要	６．最初と最後の頁 157-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 濱谷佳奈	４．巻 54
２．論文標題 学力格差是正策に向けたドイツの取り組み ―ノルトライン・ヴェストファーレン州の事例に注目して―	５．発行年 2017年
３．雑誌名 比較教育学研究	６．最初と最後の頁 147-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 濱谷佳奈
２．発表標題 学力格差是正に向けたドイツの取り組み ―ノルトライン・ヴェストファーレン州の事例に注目して―
３．学会等名 日本比較教育学会（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 濱谷佳奈
２．発表標題 ドイツ初等教育にみる多様性の尊重と宗教教育 ―ノルトライン・ヴェストファーレン州のカトリック基礎学校の事例を中心に―
３．学会等名 日本カトリック教育学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hamatani, Kana
２．発表標題 Challenges for Equity and Social Justice in Ethical and Moral Education: Analysis from a Japanese Perspective of the Reform from Confessional Education to Citizenship Education in Germany
３．学会等名 10th Focal Meeting of World Education Research Association（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計4件

１．著者名 ローラント・ヴォルフガング・ヘンケ編集代表，　濱谷佳奈監訳，栗原麗羅・小林亜未訳	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 216
３．書名 世界の教科書シリーズ46　ドイツの道徳教科書ー５、６年実践哲学科の価値教育	

1．著者名 志水宏吉監修， ハヤシザキカズヒコ，園山大祐，シム・チュン・キャット編著，ハヤシザキカズヒコ，Sim Choon Kiat，朴志煥，石川朝子，園山大祐，濵谷佳奈，末岡加奈子著	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 336(109-124，254-279)
3．書名 シリーズ・学力格差４ 国際編　世界のしんどい学校ー東アジアとヨーロッパにみる学力格差是正の取り組み	

1．著者名 濵谷佳奈	4．発行年 2020年
2．出版社 風間書房	5．総ページ数 326
3．書名 現代ドイツの倫理・道徳教育にみる多様性と連携ー中等教育の宗教科と倫理・哲学科との関係史ー	

1．著者名 日本カトリック教育学会編 ，濱谷佳奈分担執筆	4．発行年 2016年
2．出版社 燦葉出版社	5．総ページ数 109（36-37)
3．書名 福音み～つけた！ー「宗教」「倫理」を考えるためにー　高校編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

科学研究費助成事業 価値多元的社会ドイツにおける道徳教育のカリキュラムと教授学に関する実証的研究「日独シンポジウム・ワークショップ『考え、議論する』倫理・道徳教育の可能性と課題―ドイツと日本の事例から考える―　ワークショップ資料」（研究代表者　濵谷佳奈）2020年、1-14頁。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	ヘンケ　ローラント　ヴォルフガング (Henke Roland Wolfgang)	クララ・シューマン・ギムナジウム及びライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学（ボン）・哲学科・教諭及び講師	
研究協力者	栗原　麗羅 (Kurihara Reira) (40848652)	東京医療保健大学・看護学部・講師 (32809)	
研究協力者	小林　亜未 (Kobayashi Ami)	コブレンツ・ランダウ大学・教育学部・講師	
研究協力者	寺田　俊郎 (Terada Toshiro) (00339574)	上智大学・文学部・教授 (32621)	
研究協力者	大原　正義 (Ohara Masayoshi)	賢明学院中学高等学校・校長	